

超機密

技術部門引継書

聖光祭実行委員会 拡大実行会議

第1次最終報告

聖光祭技術部門

2021 年度業務内容概要

総括篇

1 はじめに

1.1 挨拶

これをお読みの方、こんにちは。第 62 回聖光祭技術副部門長の李博之（60227li@seiko.ac.jp）といたします。僕が代表してこの挨拶を書かせていただいておりますが、もちろん本書はいろんな人が書いています。さて、本書は 2021 年 10 月 2 日～同 4 日に開催された第 62 回聖光祭において技術部門がどのようなことを行なってきたか、そしてその反省をまとめた引き継ぎ書です。技術部門は他の部門と違い、毎回同じことをする部門ではありません。個人のスキルや人材の量と質に大きく作用されます。個人的にはみなさんができる範囲でベストを尽くして欲しいです。僕はこの時の聖光祭でアプリ局長、HP 局長、副部門長などを兼任しており、アプリ局 iOS 班のリードプログラマでした。また、QR コードシステムと統一シフトを個人的に担当していました。忙しいことこの上ないです。そうゆう観点では人事もかなり重要になります。多忙なひとをできるだけ作らないようにしましょう。その人が足を引っ張ることになります。自分語りはこのくらいにしてそろそろ本題に移ろうと思います。この引き継ぎ書がどのくらい続くのかはわかりませんが、後輩の皆さんには絶大な期待と信頼を寄せています。この部門を仲間とともに立ち上げた身としてはできるだけみなさんの後悔がないようにすべてを終え、次に引き継いでもらいたいです。頑張ってください。

1.2 本書の取り扱い

この引き継ぎ書は技術部門及び技術局発足年に書かれたものであり、基本的なことが多く乗っています。ですので、この引き継ぎ書は引き継ぐことをおすすめします。その年々によって修正や改変、追加などがあれば Tex ファイルを直接編集するか、それを訂正する形で引き継ぎ書を書くのがいいと思います。また、その年あったことを体験談として書くのもいいと思うので別途準備した方が良さそうです。ですが、この引き継ぎ書で全てがわかる状態にするのであればリンクを貼り付けたりするのがいいと思います。

1.3 Github と情報公開

今年から技術部門及び技術局で GithubOrganization を運営し、全てのコードを Github で管理することになりました。プログラマにとってコード整理やバージョン管理は重要な課題であり、聖光祭実行委員会と生徒会の透明化のため情報公開は必要だと考えています。Github の使い方は APPENDIX にて解説しています。管理者権限等が引き継がれなかった場合、先代の管理者または 60227li@seiko.ac.jp までご連絡ください。

1.4 技術部門の位置付け

「技術部門」は 59 期斎藤先輩が主導で 60 期の初期メンバーとともに立ち上げた部門です。それ以前は「総合技術研究所」（以下、総技研という）として外務の傘下にあり、アプリ局・HP 局・動画局にわかれて活動していました。ですが、時代の変化や権限及び予算の関係で規模が大きくなり、生徒会や体育祭、そして学校での依頼や活動が増えた結果、パンフ局・デザイン課とともに「ITEC」として生徒会直属の部署となりました。聖光祭ではこの ITEC を特別に「技術部門」と呼称し、部門の一つとなりました。